私がちょう戦したこと

小学部六年　長島　勝

　青森県の三内丸山遺せきに行きました。そこで、じょう文土器がどのようにできているかを知りたかったので、土器づくりにちょう戦しました。とち木県の益子焼を比べたら、土っぽい感じだとわかりました。また、土器はかざる物だと初めて分かりました。レプリカの土器をさわってみて、じょう文時代の人は手が器用なんだと思いました。

　ぼくはお皿のような土器を作りました。近くのお皿で型取りをしました。しん重にしん重にやりました。綿棒で均等になるようにのばすのもとても難しかったです。土ねん土に水をつけすぎるとどろになってしまうので、あまりつけ過ぎないように気をつけました。土器のかざりのなわをつけるときは指先の感覚を使ってしん重にねじりました。切れそうになりましたが、あきめずにがんばりました。

　お皿型で表面がつるつるしていて、二本の

なわのかざり付きの土器が出来上がりました。

完成してうれしかったです。

　まだかわいていないやわらかい土器はゆがみやすいので、車で持ち帰るのが不安でした。

家に帰ってさわってみると、ゆがんでいなくてよかったです。初めて土器を作ってみて、土ねん土に水をつけすぎるとどろになる事が分かりました。少しずつ様子を見て、水加減しながらつける事がコツだとわかりました。

またやってみたいです。